

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370839

研究課題名(和文) Ruh紙の分析とアルジェリア民族運動の再考 ザーウィヤの青年たちの思想と活動

研究課題名(英文) An Analysis of the Newspaper "al-Ruh" and a Reconsideration of Algerian Nationalism - The Thought and Activity of the Youth of Zawiya -

研究代表者

私市 正年 (KISAICHI, MASATOSHI)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：80177807

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：従来のアルジェリア・ナショナリズム運動の研究では、ザーウィヤなど民衆的イスラーム組織は否定的、ないしは植民地支配に協力的であった、と説明されてきた。しかし、al-Ruh紙の分析によって、民衆的イスラーム施設ザーウィヤの青年たちがFLNよりも先に、行動主義的主張をし、独立運動を担うイデオロギーを構築したことが明らかになった。この事実は、従来のナショナリズム運動と独立運動の研究に根本的な修正を求めるものである。本資料の重要性に鑑み、テキスト全文と資料解題をつけてal-Ruh-Journal des jeunes Kacimiという書名で2017年出版(Dar al Khilil社)をした。

研究成果の概要(英文)：In most of the research conducted on Algerian Nationalism, popular Islamic movements such as the Zawiya have generally been presented rather negatively, and as having colluded with the colonial rulers. However, an analysis of the newspaper al-Ruh reveals that even prior to the FLN, youth of the Zawiya emphasized activist issues, and created an ideology supportive of the movements for independence. This accordingly calls for a critical revision of the research that has been conducted so far, on movements oriented towards nationalism and independence. In view of the gravity of the issue, in 2017 at Dal al-Khalil we published the relevant text in its entirety along with a bibliographical essay under the title al-Ruh-Journal des jeunes Kacimi.

研究分野：北アフリカ・イスラーム史

キーワード：ナショナリズム 北アフリカ アルジェリア 民衆イスラーム ザーウィヤ

1. 研究開始当初の背景

従来のアルジェリア・ナショナリズム運動の研究は、FLNにつながる世俗主義的ナショナリストの潮流と、サラフィー主義的イスラーム改革思想「アルジェリア・ウラマー協会」の二つを軸にして行われてきた。しかし、どちらの研究も、アルジェリア・ムスリム社会に根付いていたザーウィヤの民衆的イスラームがナショナリズム運動にはたした役割を正當に評価できなかった。

2. 研究の目的

本研究は、al-Hamil のザーウィヤの活動と新史料 *al-Ruh* 紙の分析を通じて、ナショナリズム運動における民衆的組織であるザーウィヤの役割を再評価すること、青年たちの革命志向の実態を明らかにすること、独立後の国家による規範的イスラーム化政策（ザーウィヤ的イスラームの排除）とイスラーム主義運動台頭の関係を歴史的に究明することを目的として行われた。

3. 研究の方法

主要史料である地下新聞 *al-Ruh* 紙の史料分析を中心に行った。Foued Kacimi 氏の協力を得て、al-Hamil 文書館で関連資料とつき合わせながら、分析を行った。また *al-Ruh* 紙の執筆者の内、存命中の二人にはインタビュー取材を行った。

4. 研究成果

アルジェリアのナショナリズム運動や独立運動の研究は、フランス植民地政府が作成した諸資料、政党の機関誌、政治家たちの書簡、ウラマー協会の機関誌やウラマーたちの著作などを史料として行われてきた。これらの史料と比べて、*al-Ruh* 紙は、無名のアルジェリア民衆の声を反映したきわめて稀な史料と言える。本紙の分析によって、アルジェリア人民衆が、植民地支配をどう

考えていたのか、ナショナリズム運動や独立運動に対しどのように向き合おうとしていたのか、といった従来、ほとんど知られていなかった歴史の一面が明らかにされる。その事実はアルジェリアのナショナリズム運動や独立運動の研究に再考を促すものである。

(1) *al-Ruh* 紙の刊行・配布の概要および所在について

新聞は、第2号までは、*al-Muhāfāza* という名称であったが、第3号からは、*al-Ruh* と名称変更された。各号が4ページから成っている。新聞のテキストは回想録の著者 al-Khalil Qāsimī の息子、Foued Kacimi 氏の個人所有である。

第2号の刊行は、H.1367年ジュマダー月26日[西暦1948年5月6日]、木曜日である。その後、毎週木曜日に発行され、最終の第10号は、H.1367年シャアバーン月24日[西暦1948年7月2日]、木曜日に発行された。創刊号は未発見である。また第10号で廃刊になった理由は明らかではないが、植民地支配を批判したり、武装独立闘争を志向したりする内容が、ザーウィヤのシャイフたちや親たちから危険視され⁽³⁾、彼らから刊行の中止を求める圧力がかったのではないかと考えられる。

印刷方法は、印刷機械を使わず、ペンによる手書きで同じ号を複数発行し、それを仲間内で回し読みする方法をとった。刊行者は、al-Shabāb al-Qāsimī (La jeunesse qasimie カースィミー家の青年) という名の非合法の協会 (Jam'īya ; Association) である。わかっている執筆者は13人で、写字生の 'Abd al-Šamad 以外の12人が、ザーウィヤ・アル=ハーミルの創設者であり、所有者であるカースィミー家の者である。

この集団の年齢は、18歳くらいから、23歳くらいであった。執筆者は、一人 (Abū al-Qāsim) を除いて、皆がペンネーム (匿

名)を使って執筆していた。当時の政治状況からすると、その内容は、植民地支配に対する激しい批判であり、執筆者の名前を公然と明らかにすることは危険である、と考えたためと思われる。読者数は、はっきりしないが、ザーウィヤの生徒や青年たち200人くらいであった考えられる。

(2) *al-Rūh* 紙の内容と性格

本紙は、完全に地下新聞であり、仲間内だけで読まれた新聞であった。それは、何よりも内容が、植民地支配に対する強い批判と独立を主張していたため、危険だったからだ。内容は、1945年5月8日に起こった、いわゆる“5月8日”(*Dhikrā Māy*)の出来事に関するものが多く(論稿数10)、それを叙述する中で、植民地支配の悲惨さと植民地支配に対する批判、独立の主張などが語られている。また詩や物語も多いが、それらもしばしば政治的内容(植民地支配の批判やアラブ民族主義の主張など)を含んでいる。またパレスチナ問題に関する記事は“5月8日”事件よりも多いが(論稿数11)、短いニュースが多い。しかし、記事数の多さから当時のアルジェリア人青年たちのアラブ意識の覚醒が伺える。その他、ブーサーダで行われたサッカーの試合結果や自動車事故などのローカルな記事もみられる。

(3) 行動主義と武装蜂起の意志

本紙でもっとも注目すべきことは、ザーウィヤの青年たちが行動主義的主張をしていたことである。すなわち、「行動しない人たちの言い訳とペシミストたち(*mutashā'imīn*)の裏切り」の論稿(R-vol.10)には次のような主張がみられる。

ザーウィヤの青年たちは問いかける。「失敗や失望について、何度、言い訳をすればすむのか。また、いつまで、失敗を繰り返すのか。あなた方は、行動しないことを、

いかなる理由で正当化しているのか。あなたがたは、自ら訴えることに、まったく、関与していないのである。あなた方は詐欺師であり、訴えている者、全員が信用に値しない。あなた方は、口先だけで祖国愛(*ḥubb al-waṭan*)を主張する。あなた方は、いつも、自分の行動について説明をする。あなた方は、嫌悪されるべきである。なぜなら、歴史が、“あるウンマ(*umma*)が、言葉や会話によって、その栄光を取り戻し、完全な頂点に立った”と、一度でも、我われに語ったことがあるか。」[R-vol.10, “ *Dharī'a mutakāsīlīna wa khadī'a al-mutashā'imīna* /行動しない人たちの言い訳とペシミストたちの裏切り”]

「破局がその人を襲っても、破局を感じない者は、人間でもなく、動物でもないのである。失敗する前〔そのような問題に直面する前〕に、あなたの問題の解決を試みなさい。大量の雨も、最初は一滴の滴であることを知りなさい。」[R-vol.10, “ *Dharī'a mutakāsīlīna wa khadī'a al-mutashā'imīna* /行動しない人たちの言い訳とペシミストたちの裏切り”]

ここからは現状を静観せず行動に移ることへの呼びかけが読み取れる。その行動が武装闘争であるとは明示されていないが、この呼びかけは植民地支配の現状を打破すべく、アルジェリア人たちにすぐに行動を起こすよう求める主張であることははっきりしている。

彼らは、次の段階として、アルジェリア人に行動に移るよう促す。すなわち、「われわれ(殉教者たち)は、我々の死によって、あなた方のために、生活の道を整備した。我々は、あなた方のために、あなた方の未来における窓 その窓から、あなた方の幸福が現実であることが見える を開いた。また我々は、あなた方のために、我々の体(死体)を重ねて、あなた方にと

って必要な高さまでの階段を用意した。さあ、あなた方は行動を起こすのか？」 [R-vol.6, “ Dhikrā Māy ”]

これは、文脈上からはアルジェリア人に「決起」を促しているように読める。すなわち、この著者は、「5月8日」の殉教者たちが、決起の準備をしたのであり、それを受けて決起に移るのは、あなた方（アルジェリア人）だと、言っている。

ザーウィヤの青年たちは、植民地支配者に対し、「復讐」という意識をすでにもっていた。そして、彼らは、その意志を、駱駝がそうであるように復讐をとげるまで忘れない、とも述べている [R-vol.5, “ Dhikrā Māy ”]。ザーウィヤの教育の土台は、アラビア語とイスラームである。従って、彼らは強いイスラーム意識をもっていたので、宣教師たちが巧みにキリスト教の伝道活動をするには警戒心を抱いていた [R-vol.4, “ Dhikrā Māy ”]。それ故、彼らは、植民地支配者を、異教徒であり、十字軍としても認識していたので、復讐は、異教徒に対するジハードとして実行される。

こうして、復讐の強い意志とジハード意識とが結合され、彼らは武装闘争を視野に入れるようになった。すなわち「大鎌（minjal）にジハードの名誉を与えよ。太陽が昇る準備（独立闘争）をしているとき、宝庫が閉じられていたこと（独立に必要な要素が奪われていないこと）を喜べ」 [R-vol.8, “ Insāniya al-jandarma / 憲兵隊 gendarme のヒューマニズム ”]。「あなた（植民地支配者）がしたことに対し、ライオン（アルジェリアのこと）から、非難があなたに届くだろう。われわれは、もし神が望むならば、幸福の朝が訪れたとき、われわれの約束をはたすだろう。ドアをノックし、強く主張する者はみな、ドアから中に入るだろう。」 [R-vol.5, “ Dhikrā Māy ”]。ここからは、来るべきとき（幸福

の朝が訪れたとき）には、武装反乱の意志（強く主張する者はみな、ドアから中に入る）があることが読み取れる。

こうした判断を裏付けるものが、*al-Jam‘īya al-hidāya*（導きの協会：L’association de guide）の基本方針の制定をめぐる、メンバーの中に、急進的なアルジェリア解放の意向、破壊的闘いによる祖国建設の志向、村々での抵抗運動を主張する者があったが、それらが否決されたという事実である。すなわち、「この協会には、様々な内容として表明された10を超える基本方針がある。その中には、アルジェリアの解放（*tahrīr al-Jazā’ir*）を意図する“ラディカルな意見に対する反対（*muḥāraba al-ārā’ al-mutaṭarrif*）”や、その内容が不正な植民地支配の法に敵対しようとする意図をもつ“破壊的な（戦闘による）祖国建設の原理（という表現）に対する反対”と、“村々での我々のレジスタンス（*mukāfaha*）（を行うこと）に反対する意見”が表明されていたことである。」 [R-vol.6, “ Jam‘īya al-hidāya / 導きの協会：L’association de guide]。裏を返せば、協会のメンバーの中に、武装闘争によるアルジェリア解放を説く者や、村々でのレジスタンスを主張する者がいた、ということである。

この論稿の著者 *al-Muhalhal* は、この協会の第5番目の委員会 *Lajna al-ṭalaba al-mukhārrijīn*（卒業生たちの委員会 *Le comité des anciens élèves*）の創設式での挨拶文（*khiṭāb*）が、検閲を受け、講演前に修正をされた、ことも記述している [R-vol.6, “ Jam‘īya al-hidāya / 導きの協会：L’association de guide ”]。おそらく、検閲は、協会の代表である *Sidi Muḥammad al-Makkī* やその他のシャイフたちによってなされたと思われる。そして、この論稿の執筆者、*al-Muhalhal* は、ザーウィヤの長

al-Makkī の息子である。彼が、わざわざ講演の挨拶文が修正されたことや、協会の基本方針をめぐって意見対立があったことを記したのは、シャイフたちの考えや方針に反対の意向をもっていただけと考えられる。おそらく、ザーウィヤの青年たちの急進的な主張、に対し、シャイフたち、および彼らの父親たちが反対していたのであろう。ここからは、植民地支配に対する戦いとアルジェリアの独立の方向性や戦術をめぐって、世代間で対立が起こっていたことが伺われる。青年たちの中に、アルジェリア解放のために武装闘争を主張する声があったことは間違いない。

また、ザーウィヤのメンバーの間での世代間の対立や、青年たちが、アルジェリア独立のために急進的考えをもって来たことは、冒頭で言及した al-Khalīl の “ 回想録 (mémoires) から伺える。すなわち、青年たちが創設した、Jam‘īya al-Muḥāfaẓa は、ムスリム・アラブのアルジェリア (al-Jazā‘ir al-‘Arabiya al-Muslima) の解放と独立 ” のスローガンを掲げ、崇高なる祖国愛の感情の高まりの中で、大きな発展をしたが、カースィミー家の中の Jam‘īya に反対する者たちの攻撃を受けて、解散を強いられたのである。しかし、青年たちは、その後、別の Jam‘īya を、その活動計画を極秘にして、組織し、*al-Rūh* という名前の私的な新聞を週刊紙として刊行した。

al-Rūh 紙は、1948 年 4 月ころ～1948 年 7 月 2 日までの短期間で廃刊となった。しかし、まだ、1954 年 11 月の FLN (Front de Libération Nationale) による武装蜂起の勃発の 6 年以上も前である。すでにこの時期に、この地下新聞に参加した青年たちは、行動主義的であった。彼らと同じように、アラビア語とイスラームの復興を主張したイブン・バーディースとウラマー協会が政治的行動に対しきわめて慎重な態度を

とったことと比べると、彼らの行動主義は注目に値する。さらに、ザーウィヤの青年たちは、すでに急進的な志向、すなわち武装闘争 - 明瞭な形では表明されていないがを志向していたと言える。

(4) 民衆の声と時代の潮流

ザーウィヤの青年たちは、この悲惨な生活は、最低限のヒューマニズムさえも守らない植民地支配に由来するものと考えた。その結果、彼らは、人間として尊厳、名誉、固有の権利 (ḥawza)、聖域 (ḥurma) を回復するためには、植民地支配からの独立しかない、との結論に達した。こうして、彼らの意識は、「復讐」から、武装蜂起へと激化していく。*al-Rūh* からは、植民地支配下でアルジェリア人民衆と社会の意識が、このように変化していった状況が読み取れる。

この変化は、アルジェリア人のフランス植民地支配に対する抵抗が文化的抵抗運動から始まり、政治的要求 - 最終的には政治的平等の要求 - が植民地権力によって拒否され、また抗議行動が暴力的に鎮圧される事件の繰り返しを経て、文化的抵抗運動が独立を志向する政治的ナショナリズム運動へと変わっていった過程を示している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

私市正年 « Jarida al-Ruh : Shabab Zawiya al-Hamil », Religion et Société, University of Alger, 2017.

〔図書〕(計 3 件)

私市正年, 『Jarida al-Ruh : Zawiya al-Hamil の青年たちの地下新聞』、(ワーキングペーパー) 上智大学イスラーム研究センター、査読なし、2017、54.

私市正年、*al-Ruh : Journal des jeunes Kacimi 1367/1948*, Bou Saada (Algeria), Dal al- khalil, 2017, 258+52.

私市正年 他、(高岡豊・白谷望・溝淵豊 編著)『中東・イスラーム世界の歴史・宗教・政治』、「ザーウィヤ・アル=ハーミルの青年たちと“al-Ruh”紙 アルジェリア・ナショナリズム運動の再考」, 明石書店、2018、76-91.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

()

私市正年 (KISAICHI Masatoshi)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：80177807

(2)研究分担者

(0)

研究者番号：

(3)連携研究者

(0)

研究者番号：

(4)研究協力者

(0)